

「葉っぱのフレディ」の原作者で南カルフォルニア大学の教授だったレオ・バスカーリア先生は、来日して鎌倉で禅の修行を受け、輪廻の思想を学びました。命は形を変えて循環するという思想で、それが木の葉っぱの循環につながります。

春に出た若い葉っぱが夏になつて色濃く茂ると、村人が暑さを避けるために森林にやってきます。濃い緑色をした葉っぱが体を寄せて作った日陰が、村人の憩いの場になります。秋になると、葉っぱはそれぞれ

# 緑のエッセイ

黄色や赤や紫に色づきます。それぞれの色が違うのは、風の当たり方や太陽の当たり方が違うからで、一枚一枚が自分自身の紅葉を迎えます。そうして冬になり霜が降りると、紅葉した葉は枯れ、風に揺られて大地に返ります。そして雪に埋もれた葉っぱの水分と栄養は、再び木の根から吸収されて、春になると若い葉っぱとなる。

この命が循環しているという輪廻の哲学をレオ・バスカーリア先生が絵本にし、それが日本で翻訳された時、私はこれが

ミュージカルになれば、目だけでなく耳からも楽しめるようになり、もつと皆さんに知ってもらい、親しんでもらえるようになるのではないかと思いつきました。出版社の方に誰かに脚本を書いてもらってミュージカルにしたらどうですかと勧めたところ、それなら私にやってほしいといわれました。

素人だからと一度は断つたものの、どうしてもと請われ、ホテルに詰めてやつとの思いで脚本を作ったのが、ミュージカル



「葉っぱのフレディ」の原案です。この原案を基に、昭和女子大学人見記念講堂で初演が行われたのが平成12年の10月で、いまから12年前のことです。それから小学生の夏休みに合わせて、年一回の公演を続けており、初演から10年後の平成22年には、ミュージカルの本場であるニューヨークでの公演を行うことができました。

この葉っぱのフレディは、森の話、木の葉っぱの話です。国土の約7割を森林が占める先進国の中で有数の森林大国である

日本では、いま森林が荒れています。この荒れた森林を立て直し、良い木を作って木造の家を建てていけば、きつとコンパクトに住まうよりも心豊かになることでしよう。この運動を全国民の運動にするために100歳の私もみどりの特別大使として幹や根となり、若い葉っぱである緑の大使の子どもたちとともに、たすきをかけ、陣頭に立つて進んで行きたいと思えます。

明治44年10月4日、山口県山口市生まれ。(100歳)  
 昭和12年、京都帝国大学医学部卒業。  
 昭和16年、聖路加国際病院に内科医として赴任。  
 昭和26年、米国エモリー大学に留学。  
 昭和48年、(勲)ライフ・プランニング・センターを設立。  
 平成4年、聖路加国際病院院長に就任。  
 現在、同病院名誉院長、理事長。

## 森林のチカラで日本を元気に。

「葉っぱのフレディ」の子役が森林の市でアピール  
 5月13日に開催された「森林の市」で、ミュージカル「葉っぱのフレディ」の子役たち(みどりの大使)により、みどりのアピール宣言とミニライブが行われました。



### 〈みどりのアピール宣言〉

「こんにちは、フレディーズです。私たちはみどりの大使です。森は二酸化炭素を吸って、きれいな空気に変え地球温暖化を防いでくれます。森に降った雨はきれいな水となり川から海へと流れ込んで豊かな恵みを与えてくれます。私たち人間にとって森は大切なお友達です。森が元気だと地球も元気になります。青い地球が青いままで、緑の命が緑のまままで元気に生き続けますように、森林のチカラで日本を元気に。」